

特別養護老人ホーム 東かなまち桜園

第一回の手芸俱楽部は二十三名のご参加を頂きました。ご家族も参加してくださいり、地域交流室が狭く感じたほど賑やかになりました。今回の造花は、可憐な洋種朝顔と、ミニひまわりが入荷。夏のアレンジを楽しんで頂きました。

お裁縫は、月二回の俱楽部内だけでは物足りないご利用者様もいらっしゃるので、四丁目三番地フロアにて、随時ミニ俱楽部を開催しています。まずはお問い合わせの上、ご見学くださいませ。

今回、六月以来用意している新プログラムの紹介もさせていただきます。「あんぐるせん手芸」という、新聞広告チラシをこより状にして、籠を編む手芸は、こより状にするのが難しかったので、細長く畳んで使うようアレンジしています。ラッカ一塗料で仕上げると、紙製とは思えない立派な籠になります。さらに靴下を作るぬいぐるみ、金魚の形をした巾着作りもご用意しています。みなさんに見本をお見せすると顔がパッと明るくなるんです。手芸俱楽部では、「やってみたいなあ」と心から思い出しが沢山用意しておりますので、ご参加をお待ちしております。



こちらは全部一人の利用者様の作品です。桶を選んで作っています。



この手芸のコツ

ボーチを作っていたら、必ずご利用者様に二十種類程端切れを用意してお見せし、どの布で縫うかを選んでいた場合がほとんどです。仕上げたとき「あら、いい柄ねえ」と褒められるとうれしいものですから、ぜひ選んでもらいましょう。

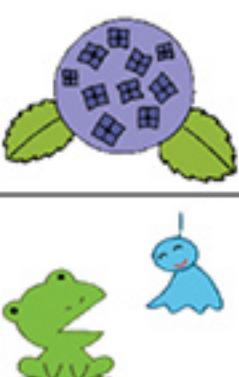
持つて行けたらいいな、と思っています。後は、靴下を再利用した猫のぬいぐるみと、チラシを作る紙の籠を準備しております。好きなものを選べます。

次回は六月十日(火)、地域交流室にて十五時より開催予定です。ご家族もご参加いただけます。ぜひご見学くださいね。

参加者の人數、取り組んで頂く作業メニューが増えてきました。作業の準備や進行がスムーズに行えるよう、努力していきます。

伊藤機能訓練指導員より

2014年
5月29日号
第11号



新メニュー紹介

手芸俱楽部では作業がマンネリにならない様、新しいプログラムを順次用意しています。こちらは新プログラムの金魚ボーチです。市販品で流行っているデザインを真似して作りました。納涼祭のとき、皆お揃いで



編集後記：右麻痺のあるご利用者様。皆で縫い物をしていると、時々覗きに来いらっしゃいました。元気な時は縫い物されていた方なのですが、片手での縫い物は無理だろうと、私も勧めませんでした。ですが、ご本人がやってみたい!とおっしゃいます。刺繡枠を使い、職員が右手役をして刺繡にトライ。フォトフレームに入れたらこんな素敵なお品ができあがりました。その人にあったプログラムを個々にご用意することをこれからも大事にしていこうと思います（平戸）

